

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 13 号

発行日
2023.10. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○終わる「うりずん」にあった懐かしい情景!!

心情的には、甚だ複雑ではあるが、かの玉城青年の家が、新館建設・再スタートのために、近々壊される! 昨日(9/23日)、その施設(建物)の思い出を語る、言わば「お別れ会」みたいなものがあった! 参加者は、少し寂しくもあったが、それぞれの思いを胸に馳せ参じた人達である(初代専門職員であったKさん、最近、故あって辞めたN君を含む)!

私は、現在、相談役をやっているということもあって、多少遅れて、その会に顔を出したが、腰の調子も悪かったので、その後の、施設巡り? には参加しなかった(同席していた、何代目かの所長Yさんと、事務室で、昔話に花を咲かせていた!)。

私自身も、その施設での思い出は、それこそいろいろあるが、そこで行った、大学の授業の一環での宿泊研修(1泊2日)、及び何度目かの利用の時のご迷惑(深夜早朝までの学生との歓談? ↓次の「朝の集い」の時の、当直の専門職員からの大いなる叱責!), またある時は、当時の若いミュージシャン(確かリッツという名?) とのミニライブや卒業生講話、そして、ゼミ主催の研究会の実施等、数々の思い出がある! 老朽化のためということであるが、その施設、そこで働いていた人、そして、そこを利用していた人にとつては、まさに、そこが、懐かしい情景を残しながら、「終わる」ということである! これもまた、一つの時代の流れでもある! なお、その敷地は、新施設の「キャンプ場」となるということである!

○調査団? の来所&夜の飲み会(うりずんの誓い?)

これもまた、同日(9/23日)、ある調査団? 4人が(その中には、40年振りという、院政時代の知り合いHさんもいた! 彼は、見るからに、素敵な老紳士となっていた!)、我が「岳陽舎」を訪れてくれた! 出来合いの出会いとも言えるが、現在の「教員の働き方改革」に関わる政策談義ともなり、折角の機会でもあったので、私なりの評価と意見陳述も行った!!

ここでの談義が、どのように、その調査団? の研究成果につながるのかは、まったく分からないが、若干なりとも貢献できることになれば、これほど嬉しいことはない! ある意味では、知己との再会の場であったことは否めないが(特に、Hさんとの再会は、過ぎ去った広島/院生時代のことを、否が応でも呼び起こすものであった!), 久し振りに楽しい時間となった!

その後、無理やり、私の午後の用事(※上記)に合わせてもらう形で、南部のエスニック料理店(ニライカナイ橋の近く。確か「カフェくるくま」という名)で、昼食を共にし、その地での絶景(本当に素晴らしい!) を、一緒に楽しませてもらった! そして、青少年の家まで、送ってもらった! さらに、その後、これも予定していた、那覇での「夜の飲み会」では(「うりずん」という、観光客には有名な店の所長のTさん、北部のSさんも含流!), 場所も含めて、とても懐かしく(ドウル天、ドウルワカシ※田幸料理も含めて!), 多少の? 酔いに任せて、「うりずんの誓い?」まで叫んだ次第である(どんな誓いかは、今のところ?!)!

○孫達への賛歌? 無理矢理? 我が青春を重ねる?!

さて、今回も、ここでは話ががらりと変わるが、過日の、宮崎県に住む双子の孫達のことである! 中学生最後の試合(サッカークラブ)で、これまで、ザーとBチームであった彼らが(いわゆる控え選手? たまに、一軍の試合に出ていたが!), 今回はスタメンで出場したとのこと(ただし全員出場! 指導者の配慮? そこに教育としての、当該少年サッカー部の意義が凝縮されている!!)! そして、ゴールとアシストを、それぞれ果たしたとのこと! しかも、勝利したとのこと!

彼らの喜び、そして、直接その雄姿を見られなかったことの残念さ、そういうものがあつて、知らせを聞いて(一日過ぎていた! 我が奥さんのラインチェック遅れ!), 直ぐにLineを通じて、彼らに告げたかったことを話したということである! 余計なことではあるが、私が、そのような行動に出たのは、もちろん、孫達に直接声をかけたこともあるが、メールで知った、母親である、我が長女の喜びにほだされてのものであったことは言うまでもない(母親として、本当によくやってきたと思う!)!!

しかるに、それは、自らの少年時代のことであるが、中学、高校と、野球部に所属し(基本的には、主将で、エースで4番? 高校の時は、エースではなかったが!), 本当に野球漬けの毎日を送った私である! だが、結局は、双方共に、夏の最後の大会では、惨めな、早期敗退を喫してしまった! 何のために、頑張ってきたのか? 最後の様は、何と情けないものであったのか? そんなことを、心のどこかで引きずりながら、この年まで生きてきたわけであるが、ある意味、孫達は、それとは違った思いを持つことができたのではないか? 頑張れば、報われる!!

要は、彼らは、レギュラーではなかったが、これまでよく頑張ったということ、ある種の自信として、そして、これからも続く長い人生において、たとえその時は負けたとしても、それをやらない方がよかったというようなことは決してなく、とにかく、自分で決めたことは、最後までやり通して欲しい(後悔や愚痴も、その時々においては、出てくるかもしれないが!)! そういうことを、直接伝えたかったということである!

◎自然科学と人文科学の違い、そして、その役割!!

表面の記事にあるように、今回、我が家(「岳陽舎」)に、4人の調査団?が訪ねて来てくれた! 調査の目的は、現在大きな課題となっている「教員の働き方改革と教員評価(のあり方)」について、現地調査及び、当地の研究者との意見交換をしたいというふうなものであったが、同時に、そのメンバーとは、久し振りの再会ということでもあった(ある意味、そちらがメイン?)!

尤も、ここでは、その報告的なものを書きたいということではなく、改めて、少し時を置いて考えてみた、いわゆる「自然科学と人文科学の違い、そして、その役割!!」というふうなことを、少しだけ述べてみたいと思う次第である。

今回の、彼らの研究調査旅行にケチをつける気は毛頭ないが、I氏も含めて、これまで、数限りない研究者(何も大学の教員に限らない!)が、まさに「教育(事象)」に関わる研究をなしてきたということであるが、その成果は、現在、どのように活かされているのか(表面的には、ほとんど活かされていない?)!!

と、そのようなことであるが、そこにある「真実(真理)」を、どのように受け止めればいいのかという、ある意味では、古くて新しいテーマというところもある!! 言い換えれば、「教育(事象)」を対象とする学問・研究の限界(ジレンマ?)を、どのように克服していけばよいのかということでもある!!

単純に言えば、その学問・研究(の成果)の広がり(高まり)は、いわゆる自然科学と人文科学のそれとでは、かなり(否、まったく?)違うのではないかということであるが(前者は、答えは一つ)、教育(事象)を対象とする教育(科)◎

◎学は、そのどちらの要素も有している(言わば「複合学問」)、単純な区分け論は出来ない!!

ちなみに、より客観性・実証性を重視するため、「社会科学」というような言い方もあるが、いずれにしても、自然科学には、その対象事象の真実は一つであるということ、一方の、人文科学ないしは社会科学のそれは、そうではないということ、だから、現実世界においては(研究者のそれであるが、現場のそれであろうか?)、必要な真実を共有することが難しいということである!!

それが、悔しくもあり、哀しいことでもあるが、せめて、多くの人(全員と言いたいところであるが!)が、この考え方、このアプローチでいこうというふうな理論(公理?)が出現したらなあと思うのであるが、これはまた、夢のまた夢なのであろう!!

〈短歌に託して〉少しは、涼しくなったか!!

・終わるといふこと ただしそれは
次があるといふこと!! そうでなくては!!

・“うりずんの誓い?” 一時の酔い(宵)か?
ビールと泡盛 切に背中押す!!

・やらない方がよかった? そんなことはない!
それをどう受け止めるかが 重要なのだ!

・真理の追求 大切なものの追求!
どちらも 科学が求めるもの!!

・エンタメ風とは言うが それは自信?
古代の謎は 彼らが解くかも!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕◎

◎似非「旅枕」?しかし、ここでは、是非書いておきたい!!

ある意味突然ではあるが、ここで、是非書いておきたいことがある! かなか、本物の旅枕?をなすことが出来ないということもあるが、最近のネット上の記事とか、Youtubeでの動画視聴というところで、私にとってはある種の旅枕?が、そこに実現している!! 言わば、似非「旅枕」?ということであるが、ここでは、これまで知らなかった知努力もなかった、様々な情報、有益な視点が数多く得られているということである! 本当に、凄いい人達がいるものである(尤も、トンデモない人達も多々いるが!!)

それはともかく、ここで、是非紹介したいのは、怪しげな若者コンビ(サム&マサキ/漫才芸人風?)が提供している「TOLAND VLOG(トウランド・ヴィログ)」である! それは、「日本神話や世界の神話などの『謎』に注目して、分かりやすく解説するチャンネルです。」とある! 現在の登録者数は、私自身は知らないが、どの動画にも、(他の類似動画と比べて)圧倒的な視聴回数が刻まれている!

彼らは、事あるごとに、「エンタメ風」とは言っているが(もちろんその要素も多分にあるが!)、私には、遥かにそれを越えて、我が国の「謎多き古代史」への確かな解明材料、視点を提供してくれているように思えるのである(かの「古史古伝」等も含めて!)

!! 古代史研究家とは、一言も名乗っていないが(むしろ実業家?)、こんな若者(厳密にはサム)がいるのである! 何と云うことか? 脅威としか言いようがないが、個人的には、これから、かの九州王朝説と近畿王朝説との、言わば果てしないバトル?にも参入して、その新展開(真実?)を導いてくれるならば、これほど頼もしいことはない(その素地は、既に有している?)!! 他にも、何人かは、紹介したい人(ブログ)もいるが、今回は、以上! (堂本) **〈編集後記〉** 10月に入って、ここ沖縄でも、それなりの秋の到来を感じさせているが、まだまだである!! 書きたいこと、書かなければいけないと思うことは、やはり生きていく以上、それなりに出てくるのであるが、誌面作成とのタイムラグもあり、その時の思い、感覚が、少し怪しくもある!! 古代史の方は、予想外の動きである(目の疲れは最高潮?)!! (井上) 堂本